

きよさと 組合だより



No.324



第27回JA清里町女性部研修会（12月11日）

3集団支部



年頭にあたって

清里町農業協同組合代表理事組合長

居城勝四郎 2

新年にあたり

北海道農業協同組合中央会会長

飛田 稔章 4

新年のご挨拶

清里町農協連盟委員長

山崎 一幸 5

新年のご挨拶

ホフレン斜里原料所所長代理

泉 佳史 6

網走農業改良普及センター清里支所支所長

新年のご挨拶

清里町農協青年部部长

志賀盛太郎 8

清里町女性部部长

新年のご挨拶

JA清里町女性部部長

辺見 洋子 8

清里町農協青年部創立50周年記念式典

フレッシュミズ設立30周年記念祝賀会

第26回JA全国大会

第27回JA北海道大会

第1回大取感謝祭

第27回JA清里町女性部研修会

新規共済契約者様温泉旅行親睦会

清里特産品の夕べ

理事会の経過をお知らせ致します

謹んでお悔やみ申し上げます

ご結婚おめでとう

組合員状況

年末・年始の業務日程

健康百科

JA北海道女性大会・北海道家の光大会で
最優秀賞を受賞 中平三枝子さん

24

24

23

22

22

22

22

21

20

18

16

14

12

11

10

9

8

8

7

7

6

5

4

2

年頭にあたって



清里町農業協同組合

代表理事組合長

居城 勝四郎

新年明けましておめでとうございます。
います。

組合員各位、ご家族様の皆様がご健勝で新年を迎えられました事をお慶び申し上げますと共に、本年も明るい希望と期待が出来る一年間でありませう様に祈念申し上げます。

また口頃より農協事業運営に關し、ご理解とご協力を頂いております事に、心より感謝をする次第です。これからも役員一丸となり組合員の負託に應える事業運営に心がけ、皆さんの経営と生活に寄与できる組織体制づくりを進め、激動、激変の時代を乗り切る為、時代に即応できる事業展開を進めて参りますので宜しくお願い致します。

ます。

昨年を顧みると、春の融雪は順調に進み、播付作業は5月上旬までは、平年並みに進んだものの、5月中旬以降は降雨と降雪が続き、播付作業も大幅に遅れ、その後も低温傾向と天候不順に見舞われ、各作物の生育も遅延し心配致しました。7月中旬頃からは、天候も回復し、各作物も順調な生育に戻りました。

しかし、7月31日にはオホーツク管内において昨年に続き降雪に見舞われ、二市三町で3590haの被害が発生、毎年に見舞われる降雪による恐怖をつのらせています。当JAでは大きな被害とはならず、安堵した所です。しかし、その後

も降雨と天候不順により小麦の収穫作業も例年になく遅れ、8月7日より麦作センターの操業を開始、降雨の合間をぬっての刈取り、徹夜をしながらの操業となりました。受入原料も戻り水分の為に、例年になく高水分でありましたが、穂発芽の懸念から、一刻も早い刈取りを強いられました。原料は全体的には前年度よりも乾麦重量、整粒率も良い傾向で進み、8月18日まで延べ12日間で秋播小麦を終了し、春よ恋も延べ4日間で刈取りを終え、8月22日に受入終了となり、降雨の多い年にもかかわらず、穂発芽の被害がなかった事が幸いです。その結果、収量はきたほなみ9.93俵と10俵に届かず、春

よ恋も計画に達しない5.85俵で終了しました。まだまだきたほなみの本来の特性である収量増が年度課題となった所です。小麦種子は斜里郡3JAできたほなみ、春よ恋を当JA水元工場で受入れ、種子品質の一元化により組合員にとつても大きなメリットにつながる事と、労働力の配分にも寄与できたと考えております。

でん粉工場の操業は9月5日から開始、例年より遅い操業で生産量の増をねらいました。操業中の故障による中断は発生したものの順調な磨砕となりました。後半に入ると、一日の受入量が磨砕能力を上回る出荷（無断先送り）により、日々のお荷増に苦慮致しました。期間を通じた計画出荷が課題であります。昨年は工場内の機械装置も更新することによって良品質のでん粉を生産する事となり、安全安心に寄与した製品づくりが出来たものと思っております。収量は反当69俵、ライマン20.12、製品出来高81万5650袋となり、当初計画には達せず終了致しました。

てん菜は春耕期の定植遅れ、そして8月から9月の肥大期の降雨と高温多湿により褐斑病が多発し、収量、糖分にも大きく影響が出る事を懸念致しました。てん菜の出

荷、操業開始が10月16日より始まり、出荷当初は低糖分の原料が多く、14.52%で10%を切る原料もある等、先行き不安のある状況となりました。また、降雨の頻度が多く、馬鈴しょ収穫と並行しての作業となり、収穫作業も今までに無い困難を余儀なくされ、大変苦勞をした年となりましたが、例年より収穫作業は遅れたものの、全体で掘り取りも完了し安堵した所です。収量は平均62t/ha、糖分15.64%と推測され、前年比を大きく下回る残念な結果となりました。25年度の作付面積にも影響がある事とは思いますが、24年度並みの面積の確保を維持する事が現在の農業政策、当JAにおける状況を勘案すると、是非とも必要と考えております。

豆類は6月頃の低温が心配でしたが、8月と9月の気温も高く推移した事もあり、品質も良く、小豆5.6俵、大豆も4.5俵程度となり、まずまずの結果となりました。玉葱の出荷基数が775基と集荷率約50%、収量は5tと推定しています。長芋は収穫前の大雨により穴落ちもあり、折れも見られ、秋掘で2.8tと前年よりやや減収傾向であります。牛蒡は播付けの遅れからL・M中心の品質で反収1.9tと例年よりも減収

しました。

酪農畜産は生乳生産が前年度より減少し、約1万2800tと予想され、飼料の高騰から厳しい状況となり、肉畜(和牛)においても、東日本大震災の影響が未だ回復できず、販売価格も平成22年の価格には回復できていない状況となっております。

畑作関係では異常気象の影響が収量、品質にも大きく関わり、肥培管理の徹底が急務であります。酪農畜産においても市場の回復を切に願う所です。

昨年、第27回JA北海道大会が開催され、向こう3ヶ年のJAグループ北海道のめざすべき方向を定め、活動方針を決定いたしました。主題は「協同活動でつくる持続可能な農業と地域社会」とし、決議事項の実践を図ろうとするものです。1.「持続可能な北海道の実現」として農業のあるべき使命は、食糧基地北海道の安全安心の農産物の生産、安定した消費者への供給を確立する事。2.「一次代を担う協同の実践」では、北海道としてのJAの経営を担う次世代の担い手の育成と総合事業体として組合員、地域住民からも信頼されるJAづくりが実践事項として決議されました。

当JAにおいても第27回JA北

海道大会の決議事項を基に、事業計画の実践指針として参りますので組合員皆様のご理解をお願い致します。

昨年は生産組合、各団体の記念事業が実施されました。生産組合では清泉種子馬鈴薯採種組合設立50周年、組織では清里町農協青年部創立50周年、フレッシュユミズ設立30周年と節目を迎えました。半世紀に亘る活動が行われ、JAは基より組合員、地域の活性化と連携によって培われ、継続され活躍された功績に敬意を表する次第であります。30年、50年の永きに亘る節目は継続する為の一步であり、さらに先を見据えた事業活動に邁進する事を願う所であります。

第8期総合4ヶ年計画の樹立が2年目を終える中で、激動、激変の時代の改善が出来ないまま、当面は自主・自立で事業を推進する事となります。北海道の作物の作付状況も、ここ2年余りで変わりつつあります。近年の異常気象の影響、組合員の高齢化により、馬鈴しょ、てん菜の面積も激減、労働配分を計る事で麦類の面積が増える状況です。総合4ヶ年計画では主要3作物の大きな作付変更が無い事と、当JAの適正輪作を進めて行く事で現状の作付面積確保を進めながら施設の有効利用を充

実させて行く事が重要でもあり理解を求める所です。

結びに当り、厳しい農業、社会情勢の予測のもと、役職員一丸となり事業運営と農政活動を進めて参りますので宜しくお願い致します。

今年も、ご家族皆様健康で豊穰の出来秋で最良の年となります事を祈念し年頭の挨拶と致します。

新年にあたり

北海道農業協同組合中央会

会長 飛田 稔 章



組合員をはじめJA役職員の皆様

様が、希望に満ちた平成25年の新春をご家族とともに迎えられることを心からお慶び申し上げます。

昨年の北海道農業は、一部地域での豪雪の影響などにより農作業の遅れなどがありました。その後比較的天候に恵まれ、降雪被害や台風による被害などによって地域や作目による差はあるものの、組合員・JAの努力が報われ総体的には豊穰の出来秋となりました。

さて、平成23年の東日本大震災から2年が経とうとしておりますが、復興への道筋は決して容易なものとはなっており、また原発事故の収束にも目途が立たず、全国の農業者や消費者は不安を抱えています。JAグループは、被災地の復興に向けてあらゆる支援を続けていくこと、安全・安心な農

畜産物を安定的に消費者の皆様にお届けすることに、今こそ協同組合の精神である「絆」を大切にす
る価値観のもとで、総力を挙げて取り組むことが必要です。

なお、今冬は電力不足の可能性から、北海道では今夏の取り組み同様7%以上の節電目標が設定されました。もし万が一にも計画外停電となった場合には相当の支障が生じることが危惧されることから、JAグループ北海道として節電に取り組んでいく必要がありますので、皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

さて、本年は『協同活動でつくる持続可能な農業と地域社会』を主題に開催した第27回JA北海道大会決議事項の実践初年を迎えます。本大会は向こう3か年間のJAグループ北海道のめざすべき方向を決定し、これを内外に表明するとともに組合員ならびに役職員の意識高揚を図り総力を結集して決議事項の実践を図ろうとするも

のです。

大会決議事項の「持続可能な北海道農業の実現」では、日本の食料基地北海道として、安全・安心な農畜産物を生産し、安定的に消費者に提供するという使命を果たすために、持続可能な北海道農業の実現に向けて、必要な農業政策を国に求めていくとともに、自らも農業生産を担う多様な担い手の確保・育成、農業生産に意欲を持つて取り組める農業所得の拡大、食の安全・安心対策の実施と環境に配慮した農業の実践に取り組むことを決議しました。

一方、「次代を担う協同の実践」では、JAグループ北海道の組織・事業・経営において、JAの経営を担う次世代の担い手の正組合員加入を促進し、次代に向けてともに協同活動に取り組むこと、地域におけるライフラインの一翼を担うものとして、総合事業体の強みを生かし、組合員・利用者（地域住民）から高い満足度を得られ

るサービスを提供するため、自らがさらなる経営の健全性向上に取り組むこと、加えて、組織を支える人づくりとJAグループ北海道への理解醸成に向け広報活動に積極的に取り組むことを決議しました。また、TPP交渉参加断固阻止に関しては、多くの関係機関と連携の上、理解促進運動を継続し、組織の総力を結集し不転換の決意で徹底して闘うことを特別決議として再確認しました。

大会決議に基づき基本目標の具体的成果に向け、JAグループ北海道の総力を挙げて取り組みましょう。

今後、景気の低迷や農業貿易交渉等の進展によっては、農業への影響が大きく懸念されますが、全道の組合員の皆様をはじめJA役員が「一人は万人のために、万人は一人のために」という協同組合の理念をよりどころにして、JAへの結集を強め協同運動を強力に展開することにより、この苦境を打開し未来を切り開くものと確信しております。

本年も災害がなく、豊穰の秋を迎えることができ、北海道農業の発展と成長をめざし飛躍の年となりますよう心から祈念申し上げます。新年にあたってのご挨拶といたします。

年頭のご挨拶

新年のご挨拶



清里町農民連盟

委員長 山崎 一幸

新年明けましておめでとうございます。
います。

平成25年の初春を迎えられた事を心より喜び申し上げます。

また日頃より農民連盟の活動につきまして、ご理解とご協力を頂いております事にお礼申し上げます。

昨年は、春先より天候に恵まれず、突然の降雪により作業が中断してしまい、開店休業状態となり今後の生育と管理に不安を抱える事となりました。

各作物の生育が心配されながら迎えた初夏の頃より、順調な天候かなと思いきや麦の刈り取りの大事な時期に降雨が続き、発芽を覚悟する事となり今後を暗示する収穫となりました。

9月に入ってからの猛暑により、

病気の発生や、品質に大きな影響を与えたことにより、収量と澱粉量や糖分量の低下になり残念な結果となりました。10月に入ってから連日の降雨は、収穫作業に多大な影響を与え、馬鈴しょやてん菜の各工場の計画出荷に支障を与える事となり、11月になっても影響が残り小麦の防除がトラクターでは困難な圃場が続出しました。

まさに異常気象と言える極端な気象の変化でしたが、それが連続すると異常では無く普通になるとしたなら今後問題を残す事となるでしょう。

そして、私たちの運動の中で気がかりだったTPPと所得補償の事は、引き続き最大の案件として

運動の中心となります。

特にTPPにより、関税が撤廃されたら今の所得補償は根本的に崩れるでしょう。なぜなら関税が所得補償の大部分な財源であるからです。仮に一般財源が全てになるとしたら国民全体の賛成を得られるか疑問です。なぜなら国民に対し説明をしてないからです。各国と交渉をする前に、我が国が農業に対しての政策を国民に説明して、さらに日本に必要な農業政策を異業種間での理解も作り上げなければ無理でしょう。

TPPは一度動き出すと後戻りできません。不利な条件でも文句は言えないのです。また参加国の企業に損害を与えると、加害国全体で補償をしなければならぬ

条件も付けられます。それでも日本の将来に明るい展望をもたらすなら議論もできるかもしれません。

しかし、一部のトップの産業者だけが潤うようであれば意味が無いです。経団連の会長自体が農業関連企業に関わっていて遺伝子組み換え作物を普及しながら攻めの農業を語るならば、なおさら反対行動を強めなければなりません。

国民に問いかける事もなく交渉が先で理解は後回しでは非常に危険であり、特にアメリカが安全保障を盾に日本に圧力を掛けるなら、過去の貿易摩擦問題の農産物の取り扱いと同様になるでしょう。

そのような中で、我々としては幾度となく国との話し合いを重ね、この地域に合った政策の実現とTPP交渉反対に向け運動を進めて行きたいと思っています。そのためにも、盟友の皆さんの更なるご支援を期待致したいと思います。

結びとして、本年は災害も無く、豊穣の出来秋に喜べるような年になる事を心よりご祈念申し上げますと共に、農民活動にご理解とご協力をお願いいたしまして新年の挨拶と致します。

年頭のご挨拶

新年のご挨拶



ホクレン斜里原料所

所長代理 泉

佳史

新年明けましておめでとうございます。
皆様におかれましては、お健やかに
新しい年をお迎えのこととお慶び申
上げます。

日頃より、てん菜振興並びに原料
所業務につきまして、生産者および
関係機関の皆様にご理解とご
協力を賜り深く感謝申し上げます。

平成24年度のてん菜作況について
は、5月上中旬の降雨降雪により定
植作業が大幅に遅れ、圃場間の生育
差が目立つ状況でありました。その
後も低温で推移したため生育は遅れ
ましたが、7月上旬からの好天によ
り8月末には平年並みに生育は回復
しました。しかし、8月下旬から9
月下旬までの記録的な高温多湿条件
下で、褐斑病や黒根病の発生が拡大
した事と11月の温暖・降雨により収

量・糖分とも平年を下回る結果とな
りました。

原料てん菜の輸送については、10
月は順調に進みましたが11月に入る
と降雨の日が続き輸送作業は大変苦
慮しました。気象庁の斜里の気象
データを見てみると、過去10カ年で
11月上・中旬の合計降水量は平成
6年に次いで2番目に多く、1mm以
上の降水量を16日も記録しています。
その影響で受入場での受入が計画よ
り7日遅れて11月23日に完了し、後
期輸送については、11月25日からよ
うやく本来の輸送計画に戻すことが
できました。このような状況ではあ
りましたが、ストックポイントの整
備や火山灰の用意等、収穫作業が難
儀する中での皆様のご協力に対し深
く感謝を申し上げます。

本年のストックポイントの導入に

つきましては、本会の助成事業によ
り49基もの新規導入および拡張工事
があり、たくさんのお申込に感謝申し
上げます。昨年ほどストックポイン
トのメリットが大きい年はなかった
と思いますが、次年度以降の設置
をぜひともご検討いただければ幸い
でございます。

さて、私どもを取り巻く農業情勢
については、昨年度からスタートし
た戸別所得補償制度が開始され、作
物の生産性向上の努力が報われるよ
う数量払いを基本に交付されるよう
になりました。更に、交付金対象外
作物への移行防止、農地権利移行の
円滑化、適正輪作体系維持など導入
の効果が見られています。しかしな
がら、同制度が法制化されていない
ことから政権与党の交代により定着
化が難しい事が課題であります。

また、TPPについては、現在
11カ国で交渉会合が進められてい
るところでございます。TPPは関
税撤廃を目標としていることから交
渉参加により、国内農業は立ちゆか
なくなりません。北海道農業も壊滅的
な打撃を受け、関連産業、地域経済
雇用にも大きな影響を与える事から
今後とも強く反対していかなければ
なりません。加えて、原発再稼働に
ついて、安全で安心な農作物の持
続的で安定的な提供を実現するため
に脱原発を訴えていく必要があると
思います。

次年度のてん菜作付面積の減少が
懸念される中、ホクレンとしまして
も輸送合理化推進事業に代わる新し
い事業をてん菜振興協議会や関係機
関と連携を図りながら検討している
ところでございますので、たくさん
の方の事業活用を期待するところで
ございます。

結びに、皆様方のますますのご健
勝と本年が豊穰の秋を迎えられる事
を切にご祈念申し上げます。新年の挨拶
とさせていただきます。

新年のご挨拶



網走農業改良普及センター清里支所

支所長 佐藤文洋

新年明けましておめでとうございます。平成25年の新春をご家族お揃いでお迎えのことごと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は春先の積雪や時季はずれの高温、収穫時期の長雨など近年にない厳しい気象条件となり、春先から8月上旬までは気温が平年より低く経過し、その後は高温により8月下旬～10月までの積算平均気温が2～1℃高くなるなど(平年比120%)、特徴的な気象変化の年となりました。

農作業や作物の生育状況につきまして、春まき小麦の種や馬鈴しょ・てん菜の植え付け作業が平年並みに進み、5月1日には25℃を超える高温となるなど順調なスタートとなりました。しかし、5月11日からの積雪により一気に農作業はストップし、ほ場によつ

ては植え付け作業が平年に比べ2週間以上の大幅な遅れとなりました。6月と7月には降雪があり、7月31日には大雨により秋まき小麦・春まき小麦に倒伏の被害が発生しました。

8月に入っても降雨と低温による天候不順が続く、秋まき小麦の収穫時期を迎え刈り取りが心配されましたが、「きたほなみ」の品種特性が活かされ、限られた時間の中で収穫乾燥調製等関係者の努力もあり無事終了することができ、最終的にはまずまずの結果となりました。

「冷夏は終わり？」と感じた頃、一転して1カ月遅れの暑さとなり、連日20℃を超えたことから、低温により生育遅れが心配された豆類が急激に回復しました。しかし、てん菜の生育にとっては厳しい気象条件となり、10月末より雨が降り続き、11月も更に連日降雨

となり収穫作業は大幅に遅れまして。手作業での収穫を余儀なくされたほ場もあり、作業は困難を極め、大変苦労された年でありました。

積雪・降雪・1カ月遅れの夏の暑さなど、急激な気象変動に対応しなければならぬ厳しい一年ではありましたが、全体的にはまずまずの収穫状況となったことは、これもひとえに家族や地域が一体となった努力と長年にわたる土づくりの取り組みによるものと敬意を表します。

農業を取り巻く情勢につきまして、TPP(環太平洋経済連携協定)に関する方向性が定まらず、今後の北海道農業や地域の暮らしにまで大きな影響が出る懸念が懸念されます。また、戸別所得補償制度も本格実施され、国内農業に大きな変革の波が来ています。ここ数年連続して起こる寒暖

差の激しい気象は今後も続くものと思われ、農業を取り巻く情勢も見通しが不透明な状況であります。が、どのような状況下でも「土づくり」を基本技術として、各組織の力を活かした効率的な農畜産物の生産を目指すことが大切と思われまます。

普及センターとしましても基幹作物の安定生産を目指し、普及活動の重点対象地区を中心に、新品種に対応した生産技術改善や新たな生産システム確立のため、町やJAと連携しながら活動を推進しています。また、効果的な施肥を実現するため、作物の「根」に注目した土壌調査を3年前から進めており、地域の土壌条件にあった施肥方法などを提案しています。

今年も、秋まき小麦「きたほなみ」を中心とした新たな品種の安定生産に向けた支援、高収益作物の導入と収量・品質の安定、農業担い手の確保・育成について若い世代の組織を中心に支援をして参ります。職員一同、これらの取り組みをしっかりと進め、地域農業の振興に力添えしたいと考えております。

皆様にとつて輝かしく豊かな年となると共に、皆様のご多幸と益々のご発展をご祈念申し上げます。新年のご挨拶と致します。



年頭のご挨拶 清里町農協青年部

部長 志賀 盛太郎

新年明けましておめでとうございます。輝く新春の候、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より農協青年部活動に対し、農協を始め、各関係機関の皆様には多大なるご支援、ご協力を頂いております。誠に深く感謝申し上げます。

我々青年部は、年々厳しい増産農業情勢の中、明るく魅力ある将来を築くべく、農協、各関係機関との連携を深め、組織活動の強化や担い手育成に力を入れてまいります。

昨年は着先からの日照不足、播種付け遅れ、最中の低温と降雪があり、作業が辛く大変な年となりました。

新年のご挨拶

部長 志賀 盛太郎

事態もありました。夏には高温が続ぎ、麦刈時期には雨が多く、刈取り作業は大きく遅れました。

9月からは高温と干ばつが続ぎ、作物の生育に大きな影響を及ぼし、10月から11月には、ほぼ毎日のように降雨があり、収穫は例年になく難しくしました。この数年は異常気象が続ぎ、昨年も同じく先の読めない異常気象であり、もはや恒久化しつつあり、気を抜くことができない。営農管理を強化されており、ます。

農業情勢におきましては、一昨年より議論が始まったTPP交渉参加問題があり、昨年の衆議院解

散選挙の各政党の論点の一つにもなりました。しかし、交渉参加に前向きな国会議員や有識者の述べる事の中に農業に対する見解は一切なく、農業に対する何の対策もありません。TPPに参加するつもりであれば、北海道農業者にとっては未来を奪われたと同じことであり、絶対に許してはならない問題であると思っています。

昨年の活動を振り返りますと、農政部、農畜産部を中心に各種学習会を各関係機関のご協力をいただき、農政部、農畜産部合同学習会として農機具メーカー、農機販売会社のご協力をいただき、機械学習会を開催し、近隣町村の青年部や組合員皆様からも多数ご参加いただきました。他にも農協、各関係機関の皆様に参加協力していただいたソフトボール大会、現地で直接見て触れて学習する視察研修、産業界での農機展示や展示圃場で収穫した農畜産物販売を行い、オホーツク地区青年部協議会の主催行事であ

る農水省ファームステイ事業が昨年は清里が受け入れ当番地区であり、農水省職員の方を招いて泊3日で意見交換会、農協、ホクレン施設見学等も行われました。このような様々な行事を通じて青年部員の更なる知識の向上と農業への意欲を高めるべく活動して参りました。

また、昨年は青年部創立50周年の節目の年であり、12月に記念式典を開催しました。歴代の先輩方が様々な困難の中、築き上げてくれたものを継承しながら、農協組織の一員としての役割の大切さと青年部活動への更なる意識向上を目指してこれからも発展していくよう活動して参ります。

最後になりましたが、農協、各関係機関の皆様には今後も変わらぬご指導、ご協力をお願い申し上げます。また、皆様方より明ら一年でありますように、ご祈念申あげまして新年のご挨拶と致します。



年頭のご挨拶 JA清里町女性部

部長 辺見 洋子

新年明けましておめでとうございます。輝かしい新年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃よりJA女性部活動に対し、JAを始め、各関係機関の皆様方には多大なるご支援、ご協力を頂きまして厚くお礼申し上げます。また、深いご理解の下、女性部活動にご協力頂いております部員、ご家族の皆様にも重ねてお礼申し上げます。

昨年の春の時期には不順な天候に見舞われ、低温・多雨でして降雪、秋までには作物の生育も持ち直したかに思われました。

が、9月は観測史上初めてと言われる高温で推移し、芋の葉が枯れ上がり、10月末から特に11月は収穫作業に支障が出るほどの雨が多く、大変な苦労をしました。

JA北海道女性協60周年記念・第51回JA北海道女性大会・北海道家の光大大会が11月に札幌で開催され、先に書類審査で上位3位に選出されていた第1営農集団の中心三枝子さんの「花が好き・人が好き」が家の光記事活用体験発表で、北海道代表に選出され、本年2月に横浜で開催される「全国家の光大云」に出場することになりました。

また、女性部フレッシュユニミズ設立30周年を迎える事ができ、JAを始め各関係機関の皆様方の温かいご指導、ご協力の賜と厚くお礼申し上げます。

昨年の活動を振り返りますと、視察研修はホクレンパールライス工場見学で、様々な角度から「美味しさを守る」最新鋭の設備で品質・衛生・生産の3つの管理が安全・安心で一歩進んだ食品工場でした。また、サツポロビル北海道工場、ホクレンのの杜、花野菜技術センターを視察し、3日間女性部として意識向上と部員相互の交流と親睦を深める事が出来ました。

スポーツレクリエーションは、石井専務と経営課千葉課長に借り物競争に参加して頂き、お二人の足の速さに驚かされました。研修会は、「東日本大震災における活動報

告」の題目で、陸上自衛隊美幌駐屯地渉外広報班長である野尻氏による講演で、東日本大震災時、復興作業に携わった被災地の様子、私たちが災害に直面した時の対処法など、現地での経験を基に、貴重な体験談等を聞く事が出来ました。

関係諸団体への参加協力として清里女性会議、まちづくり推進協議会、ふるさと産業祭り、鶴ヶ島産業祭りなど、それぞれの事業や会議に役員共々出席させて頂き、大変勉強になりました。

最後になりましたが、JA、各関係機関の皆様には、今後とも変わらぬご指導、ご協力をお願い申し上げます。また、皆様方にとりまして、明るく一年でありますように、ご祈念申あげまして新年のご挨拶と致します。

良質な種子馬鈴薯を
供給するために日々進歩



清泉馬鈴薯採種組合 西館組合長

12月4日、清泉馬鈴薯採種組合（西館義男組合長）は、レストハウスきよさとにて設立50周年記念式典を開催致しました。

式典では、西館組合長より「初代組合長石井氏を中心に諸先輩方のご尽力により、種子馬鈴薯生産団地として町内におけるでん原馬鈴薯面積確保にかかわる種子供給の一翼を担ってきた。昭和37年に清泉馬鈴薯採種組合が設立され、昭和48年には清里町馬鈴薯採種組合連合会が設立された。設立当時はクワでの収穫作業から始まり、その後デガーでの収穫を経て、現在のハーベスター収穫へと変わった。自分が継いだ時はホークで選別機に入れることが大変だった。その



初代組合長 石井清春氏

後、ローダーで選別機に入れるようになり、平成12年からはハーベスター上での一次選別をし、大コン出荷が始まり、時代の流れとともに良質な種子馬鈴薯を供給するために日々進歩してきた。諸先輩各位の皆様へ感謝している。今後も当組合に対してご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひしたい。」と挨拶がありました。

続いて、現在の構成員8戸の先



構成員の先代へ記念品が贈呈されました。

代へ記念品が贈呈されました。代表して初代組合長石井清春氏より「50年の年月、感慨深いものがある。農協職員など、いろんな人にお世話になった。組合が設立して今日の日を迎え、感謝感激である。長生きして60年、70年に向けて頑張りたい。」と謝辞を頂きました。来賓より清里町農協居城組合長より祝辞を頂き、採種組合前組合長中西敬幸氏の乾杯の発声後、設立50周年を祝いました。



ピンゴゲームで盛り上がりました。





■清里町農協青年部創立50周年記念式典

幾多の困難を乗り越えて今後も若い力に期待！



青年部 志賀部長

12月10日、清里町農協青年部(志賀盛太郎部長)は、レストハウスきよさとにて創立50周年記念式典を開催致しました。

式典の前に記念講演会が行われ、スポーツキャスターの青島健太氏を講師に招き「夢の実現、今こそチャレンジを！」を題目に、話をしていたとき、後半では黒ひげゲームを使って黒ひげを飛ばしてしまつたら負け、飛ばしたら勝ちと二通りのゲームをやりました。

『自分に負けたらどうしようと考えない。野球の選手は、常に勝つというイメージを持ってプレイしている人が多く、楽しくヒットが増えていくようにしている。どいう風にゲームをやっているか、重要である。これはこうしなけれいけないという伝統は大事にしなければいけないが、そういった枠からはみ出して新しくチャレンジすることも大事である。チャレンジとは、いかにはみ出すかである。』

続いて、歴代の部長に感謝状が贈呈され、代表して平成4年度部長熊谷信行氏より「部長になった時に娘が産まれ、その娘も成人を迎え、歴史を痛切に感じる。幾多の難局を乗り越えてきた。私たちは食という『命』を預かっている。安心安全で安定的に供給できるよ

ある。これからも素晴らしいチャレンジを続けてほしい。』と熱い語りに部員たちは聞き入っていました。笑いもあり、スポーツという部員たちが興味ある内容だった為、部員たちからは「おもしろく、ためになった。』と好評でした。

式典では、志賀部長より「幾多の困難を乗り越えて諸先輩方の弛まぬ努力に深くお礼申し上げます。今後も関係各位皆様のご指導ご鞭撻のほどお願いしたい。」等挨拶がありました。



スポーツキャスター青島健太氏の講演会



黒ひげゲームに挑戦!!



うに今後も努力していかなければならない。国際協同組合年を迎え協同組合とは何かという事を原点に振り返り考えなければいけない。このような賞をいただき感謝する。」と謝辞を頂きました。

来賓より清里町農協居城組合長、清里町榎引町長から祝辞を頂きました。その後、記念祝賀会が行われ、清里町農民連盟山崎委員長の乾杯で祝宴に入り、各支部の楽しい余興で盛り上がりを見せ、思いつく限り合いながら創立50周年を祝いました。

J A 清里町女性部 フレッシュユミズ 設立30周年記念

◆フレッシュユミズ設立30周年記念祝賀会
仲間作りに取り組み、絆を深めていく



30周年記念事業実行委員
中平かおり委員長



J A 女性の歌を合唱



12月14日、フレッシュユミズ（岡本由加里部長）は、レストハウスきよさとにて設立30周年記念祝賀会を開催致しました。

祝賀会では、30周年記念事業実行委員の中平かおり委員長より「家族の理解と協力があり、常に感謝することを忘れずにいたい。今後フレッシュユミズらしく活動していきたい。」と開会の挨拶がありました。来賓より清里町農協居城組合長、JA清里町女性部辺見部長より祝辞をいただき、21代部長河西周子氏の乾杯で祝宴に入りました。

祝宴では、10年間を振り返って



30周年記念事業実行委員会

視察研修や講習会等の写真をまとめたスライドショーを観覧し、おもしろい写真や懐かしい写真に一同が真剣に見入っていました。スライドショーを見た感想として女性部の辺見部長は「みんな笑顔で元気があって若いって素晴らしいなって思いましたね。これからも仲間作りを基本に頑張ってください。」とコメントしていただきました。

その後、JA女性の歌をみんなで合唱し、懐かしい話等思い出を語った後、22代部長数原朋子氏の発声で万歳三唱をしました。閉会挨拶では岡本部長より「長い歴史の中で皆さんにご支援とご協力をいただきました。今後交流と親睦を図って仲間作りに取り組み、絆を深めていきたい。」と挨拶し30年を祝いました。



北海道女性大会で最優秀賞を受賞した中平三枝子さんがこの日の為に作りました。



第26回JA全国大会 次代へつなぐ協同

第26回JA全国大会が、10月10・11日に全国のJA代表者など約3000人が東京のNHKホールに参集して開催され、2013年度から3年間のJAグループの取り組み方針を決議しました。

■大会の柱

持続可能な農業のビジョン実現をめざす「地域農業戦略」
組合員・地域の課題と向き合い、つながりあう「地域くらし戦略」
次世代とともに組織基盤強化をはかる「経営基盤戦略」

今大会は「次代へつなぐ協同」をテーマに、多くの人の参加による協同活動で農業と地域を豊かにしていくことを掲げた。

全中の萬歳章会長は、「組合員や役員一人一人が組織や地域の課題に向き合い解決をすることで一歩一歩前進できる。」と呼び掛けた。

〈特別決議〉

●大会決議実践

JAグループは、被災地の農業復興と原発事故被害の克服を最優先に、国の政策強化を求めるとともに、被災地の農業・JAの復興・再建支援にJAグループ全体で、協同の力を発揮した取り組みを進めていくことが極めて重要である。公共でも利潤追求の企業でもない協同組合が、人間の暮らしを豊かにし幸せにするという認識のもと、今年に国連が定めた国際協同組合年である。震災においても再認識された「つながり」、「協同」の役割を再確認し、協同組合の力で農業と地域を豊かにすることがわれわれの使命である。

JAは、それぞれの置かれた地域の実態に即し、地域農業戦略、地域くらし戦略、経営基盤戦略を描き、「次代へつなぐ協同」に向けて、さまざまな取り組みを着実に実践していく必要がある。

●TPP交渉参加断固反対と徹底した農政運動の強化

TPP（環太平洋連携協定）交渉は、カナダ、メキシコを加え11カ国での交渉となるが、現在の状況は、砂糖や乳製品、知的財産権、原産地規制などの分野で対立が鮮明となり、合意期限は延長されるのが確実な情勢となっている。

例外なき関税撤廃をめざし、米国基準で規制・制度のルール統一を図るTPP交渉は、国家の主権をも侵害する危険性のある極めて異質な極端な貿易交渉である。農林漁業関係者、消費者、医療関係者をはじめとする国民各層と幅広く連携し、徹底した反対運動に取り組んできた。今後も多くの国民の理解と支持を得て、政府のTPP交渉参加断念を実現するまで、われわれの力を結集した最大限の運動を展開し、徹底して闘っていく決意である。

めざす姿を実現するための戦略と実践事項

主 題	めざす姿 (10年後)	戦 略	実 践 事 項
<p>協同組合の力で農業と地域を豊かにする「次代へつなぐ協同」</p> <p>地域でおおきなあい、外とつながりあう 新たな協同</p> <p>支店を核に、組合員・地域の課題に 向き合う協同</p>	<p>消費者の信頼にこたえ、安全で安心な国産農畜産物を持続的・安定的に供給できる地域農業を支え、農業所得の向上を支える姿</p>	<p>JA地域農業戦略</p>	<p>次代へつなぐ「JA地域農業戦略」の実践（地域営農ビジョン運動）</p> <p>新たな担い手づくりと農地フル活用の実践</p> <p>担い手経営体と一体となった生産販売戦略の実践</p> <p>多様な担い手と地域に根ざした生産販売戦略の実践</p> <p>消費者との信頼に基づく食の安全対策の実践</p>
	<p>総合事業を通じて地域のライフラインの一翼を担い、協同の力で豊かに暮らしやすい地域社会の実現に貢献している姿</p>	<p>JA地域くらし戦略</p>	<p>地域のライフラインの一翼を担うJAとしての総合機能の実践</p> <p>地域におけるJAの機能発揮</p> <p>「JA地域くらし戦略」の策定</p> <p>JA支店を拠点に地域コミュニティの活性化に向けたJA地域くらし戦略の実践</p> <p>JA支店等を拠点としたJA地域くらし戦略の展開</p> <p>人が「動き」「集う」幅広い交流（つながり）による事業展開</p> <p>住み慣れた地域での「助けあい」を軸とした地域セーフティネットの構築</p>
	<p>次世代とともに、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、存立している姿</p>	<p>JA経営基盤戦略</p>	<p>将来的な脱原発に向けた循環型社会への取り組みの実践</p> <p>地域に即した「JA経営基盤戦略」の実践</p> <p>協同組合としての意識改革と人材育成の実践</p> <p>次代へつなぐ組織基盤強化・組織活動支援の実践</p> <p>JA経営の健全性向上の実践</p> <p>JAの事業伸長を支える各事業の実践</p>
		<p>国民理解の醸成</p>	<p>国民理解の醸成に向けたJAの広報活動の実践</p> <p>農を軸とした「いのち・くらし・地域」を守る運動の実践</p>

協同活動でつくる持続可能な農業と豊かな地域社会



第27回 J A 北海道大会が、11月21日に道内各地から J A 代表者など約2000人が札幌市に参集して開催され、「持続可能な北海道農業の実現」「次代を担う協同の実践」の大会議案を決議、「環太平洋経済連携協定（TPP）交渉参加断固阻止に関する特別決議」を採択しました。

■提案された2つの決議案

1 持続可能な北海道農業の実現
J A グループ北海道は、わが国の食料基地として、安全・安心な農畜産物を生産し、安定的に消費者に提供するという使命を果たすために、持続可能な北海道農業の実現に向けて、必要な農業政策を国に求めていくとともに、自らも、農業生産を担う多様な担い手の確保・育成に取り組み。また、農業者が農業生産に意欲を持って取り組めるよう農業所得の拡大に向けて生産・販売対策に取り組むとともに

に、食の安全・安心対策の実施と環境に配慮した農業の実践に取り組む。

戦略目標

- ① 持続可能な北海道農業の実現に向けた運動の展開
- ② 農業を担う多様な担い手の確保・育成と営農支援機能の強化
- ③ 農業者が意欲をもって農業生産に取り組める農業所得の拡大
- ④ 消費者との信頼にもとづく食の安全・安心対策の実施と環境に配慮した農業の実践

II 「次代を担う協同」の実践

J A は、農家組合員の世代交代が進む中であって、農業を担い、地域を担い、さらには J A の経営を担う次世代（第3世代以降）45歳未満の農業者（の担い手の正組合員加入を促進し、次世代に向けてともに協同活動に取り組むとともに、協同活動の主役である青年部・女性部および生産者組織等の組合員組織の活動支援による協同

活動の強化に取り組む。また、J A は、地域農業を振興し、組合員の農業経営と生活を支え、併せて地域におけるライフラインの一翼を担うものとして、総合事業体としての強みを生かし、組合員・利用者（地域住民）から高い満足度を得られるサービスを提供するため、自らも、更なる経営の健全性向上に取り組むとともに、組織を支える人づくりに積極的に取り組む。

戦略目標

- ① 地域に即した J A 組織基盤強化対策の実現
- ② 高い満足度を得られるサービスの提供と J A への結集による J A 事業の競争力強化
- ③ 総合経営にふさわしい J A 経営態勢の確立と健全性の向上
- ④ 協同活動を担う人づくりの実践
- ⑤ 国民理解の醸成等に向けた広報活動の実践

■TPP交渉参加断固阻止に関する特別決議

11月20日の日米首脳会談において、当時の野田総理はTPPへの正式参加表明は行わなかったものの、改めて参加について前向きな姿勢をオバマ大統領に伝えた。

衆議院を解散し、総選挙を来月に控え、次期政権の枠組みを国民の審判に委ねたなかで、野田総理がわが国の将来指針や重大事項を判断することは断じて容認できない。

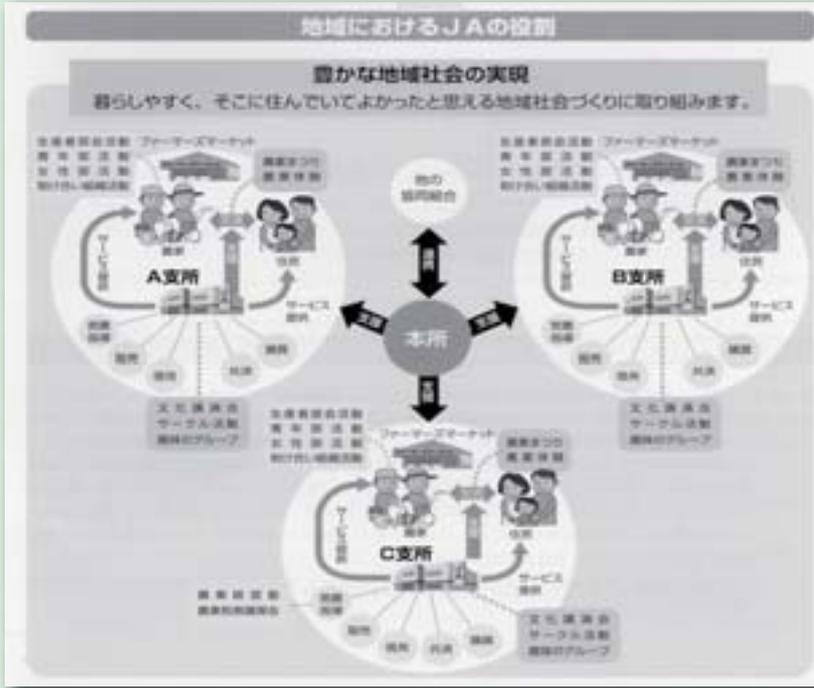
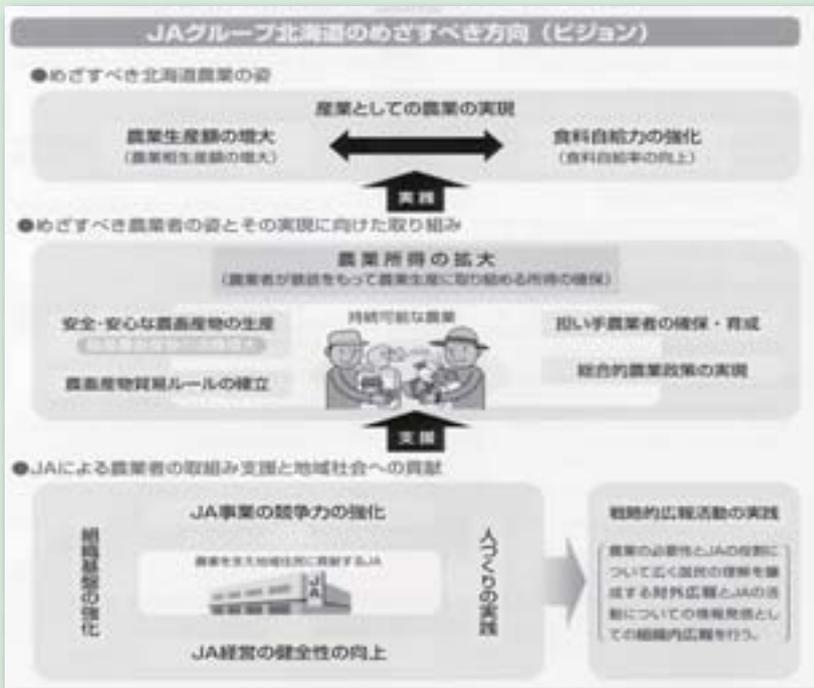
にもかかわらず、国際会議に出席し、わが国の将来方向に重大な影響を与えるTPP交渉参加問題につき、改めて前向きな発言を行ったことは、TPP参加に反対・慎重な365名の国会請願紹介議員の意思や大多数の地方議会の決議を無視し、さらには多くの国民が抱く疑問や疑念の声に全く耳を貸さない、無責任かつ不誠実極まりない言動と言わざるを得ない。

JAグループ北海道は今後の国政選挙において、TPP交渉参加に明確に反対しない政党や候補者に対しては支持を行わないことも、多くの関係機関と連携の上、理解促進運動を継続し、TPP交渉参加阻止を実現するまで、組織の総力を結集し、不退転の決意で徹底して闘っていく覚悟である。

本道農業の使命は、わが国の食料基地として、安全・安心な農畜産物を生産し、安定的に消費者に提供することであり、そのためには、食料自給力（国内農業の食料供給力）の強化を図り、農業生産額の増大に取り組む必要がある。

JAグループ北海道は、農業がわが国の重要な産業として位置づけられ、持続可能な北海道農業が実現されるよう『担い手の確保・育成』と農業者が意欲をもって農業生産に取り組める『農業所得の拡大』に向けて国民的理解のもとに取り組む。

また、JAは、地域の一員として、地域農業を振興し、担い手（農家組合員）の農業生産活動（営農と生活）を支援することはもちろんのこと、JAの行う事業等を通じて地域におけるライフラインの一翼を担うとともに、地域住民や消費者と生産者が交流する“場”の提供や“食”と“農”を起点とした様々な協同活動（農家組合員と地域住民や消費者がいっしょに取り組んでいく活動）を支援することにより、豊かな地域社会（暮らしやすく、そこに住んでいてよかったと思える地域社会）の実現をめざす。



第1回大収穫感謝祭

青空の下 賑わいを見やる



11月22～23日の2日間で農機・自動車展示会が行われ、23日には清里町民の方々へ日頃の感謝を込めて第1回大収穫感謝祭が同時に開催されました。

昨年も行われた長芋や玉葱の詰め放題、抽選会の他、餅まき、女性部のでん粉団子・手打ちそば同好会のそば、地産地消として、澤田農場の手作りみそと豆腐・TOKO-TOKOの肉まん『たまちゃんまん』・麦香房のパンとピザ・おくちゃん農園からブラムジャム・花いちもんめのドライフラワー・つゆ草の会の手作り石鹸等が販売されました。

女性部のでん粉団子は長蛇の列ができ、かあちゃんたちの手作りでん粉団子は大人気でした。長芋やごぼう等は地方発送2日間限定の特別運賃で格安だった為、大盛況で用意した品物全て完売しました。

「こんなに詰めましたよ。」



詰め放題

詰め放題では、今年も長芋が大人気でした。初めて参加した人は始まる前に「たくさん入るかな?」と不安そうでしたが、袋に詰めると「こんなにに入ったよ」と笑顔で見せてくれました。

餅まきでは、組合長・専務・参事の3人が餅をまき、来場者の「もっと奥までまいて〜」という声に必死で応えていた。

最後に大抽選会が行われ、多くの来場者が見守る中、居城組合長が抽選を行い、農産物・焼酎・お米・給油券等を用意しました。番号を呼ぶたびに歓声が上がリ、盛り上がりを見せていました。

今年初めて行った収穫感謝祭でしたが、関係各位のご協力と、天候にも恵まれ、多くのお客さんが来場し、盛会裏の内に終了する事ができました。来年以降も継続して開催し、清里産農産物のPRや地産地消、町民との交流などに取り組んでいきたいと思えます。





牛乳を無料で配布しました。



大抽選会では地元の焼酎やお米、給油券や野菜等を用意しました。



でん粉団子は常に長蛇の列で大人気でした。



女性部が愛情込めてでん粉団子を作りました。



手作りみそや肉まん、ピザなど地元の食材を使ったお店は賑わいを見せていました。



詰め放題では1つでも多く袋に入れようと必死です。

米国産牛肉の輸入規制が緩和されようとしています

～「食」が危ない あなたは知っていますか～

●米国の子供たちに広がる肥満・糖尿病

米国の疾病管理センターは2000年に生まれたアメリカの子供たちは貧しい食生活と運動不足によって糖尿病を発生する割合は全体の1/3に達するだろうと警告しています。安くて、早いファーストフード中心の食生活を続けることによって、将来心臓病・糖尿病などの治療にかえって多くのお金を費やすことに。

●食品安全委員会はBSEの規制緩和を厚労省に答申（平成24年10月22日）

・輸入月齢制限を緩和しても（20か月齢から30か月齢に引き上げ）「人への健康影響は無視できる」とした評価結果を答申した。パブリックコメントでは検査体制の不備、飼養規制等、規制緩和に反対する意見が73.7%に及んだが、科学的知見ではないとのことから評価書通りとなったもの。

●米国産牛肉の検査体制及び問題点（映画フード・インク等より）

- ・米国のBSE検査率は屠畜頭数のわずか0.1%。（年間約4000万頭の屠畜頭数の内、約4万頭の検査件数）です。
- ・肉骨粉等の残渣物の飼養規制は牛や羊のみ（豚や鶏のエサとしては、容認されている）米国では牛の糖蜜飼育（鶏糞に糖蜜をかける）を容認している。鶏が食べ残した肉骨粉を牛が食べてしまう恐れがあります。BSE(狂牛病)は肉骨粉を牛が食べることによって発病することがわかっております。
- ・米国は肉牛の肥育率向上及び乳牛の乳量アップのために成長ホルモンを使用しています。rBGH (bST) 成長ホルモン（商品名：ポジラック）モンサント社が遺伝子組み換え技術によって開発され、牛の成長を促進させ、乳牛にあっては産乳量を増やす働きが確認されています。しかし、その乳製品・牛肉を食することで人体のホルモンバランスが崩れ、結腸がん、乳がん、前立腺がんを引き起こす可能性があることがわかっています。

以上の問題点は、科学的知見ではなく「人への健康影響は無視できる」として食品安全委員会は厚労省へ答申し、厚労省は輸入規制緩和に向け着々と手続きを進めています。メディアの不作為（故意？）によって、何も知らずに米国産牛肉を食べている消費者にとっては大変不幸なことです。

第27回 J A 清里町女性部研修会

楽しいアトラクションで 笑いに包まれる

12月11日、J A 清里町女性部（辺見洋子部長）は、清里町学習センターにて第27回女性部研修会を開催しました。



辺見部長より「今年是不順な天候で苦労したと思う。J A 北海道女性大会で中平さんが最優秀賞に輝き、2月の全国大会では北海道を代表して発表する。心から応援しているので胸をはって発表してほしい。」等述べられました。

講演では、陸上自衛隊美幌駐屯地渉外広報班長である野尻氏による『東日本大震災における活動報告』を題目に、東日本大震災時の捜索活動や支援物資の配布等に携わった被災地の様子、私たちが災害に直面した時の対処法など、現地での経験を基に、復興作業の写真等を見ながら貴重な体験談等を話していただきました。

講演終了後、食品部門の試食会が行われ、審査にJ A 小清水町女性部、自女連、商工会女性部、清里町役場、普及センター、農民連盟等に投票していただき、アトラクションも楽しく観覧していました。



講演会『東日本大震災における活動報告』

アトラクションの最初は、5集団で「〇〇三味線」、いつも農作業で使っているスコップを楽器に変身させて演奏していました。最後はサザエさんが登場し、会場がドット笑いました。

続いて7集団の「サハスラブジャ」

「サハスラブジャ」とは、千の手を持つ仏の別名です。手の動きが華麗で、「ワ〜す〜ごい」と歓声が出るほどで魅せられました。

最後は6集団のダンス「みんな楽しんで Let's カーヴィー!!」で盛り上がりを見せた

ダンスに会場が笑っぱなしで、会場の部員も一緒にダンスをしていました。

生活展出品作品は、各集団工夫を凝らした料理や手芸品が披露され、北見地区に出品される作品を発表しました。

食品部門は出品数15点中2作品（8集団支部の『長芋のハムカツ』、6集団支部の『じゃが芋のムース』）、手芸部門は出品数15点中3作品（8集団支部の『広告チラシで作る小物たち』、2集団支部の『牛乳パック鍋しき』、4集団岡本寛美さんの『パーカーベスト』）となりました。

最後に、J A 北海道女性大会・北海道家の光大会で最優秀賞を受賞した第1営農集団の中平三枝子さんの家の光記事活用体験発表を聞き、研修会を終りました。



試食会の様子「美味しいですよ」

アトラクション!!



5集団『〇〇三味線』



サザエさん
登場!!



6集団『みんなで楽しく Let's カーヴィー!!』



7集団『サハスラブジャ』



生活展示品作品



『パーカーベスト』



『じゃが芋のムース』



『牛乳パック鍋しき』



『長芋のハムカツ』



『広告チラシで作る小物たち』

湊沸湖水鳥・湿地センターを見学しました。



新規共済契約者様「温泉旅行親睦会」



参加者もステージに上がって演奏しました。



「スコップ三味線・アップルシャベルズショー」はスコップを三味線、杵抜きをばちに見立てて演奏をまねます。

のんびり過ごす一泊旅行

去る11月30日～12月1日に共済課では新規共済契約者様約60名を対象に、網走温泉「ホテル網走湖荘」において、温泉旅行親睦会を行いました。

ホテル到着前に湊沸湖水鳥・湿地センターを見学した一行は、ホテルに着くなり、それぞれビデオ鑑賞や卓球、網走市内散策など思い思いの行事に参加して頂き、懇親会までの時間を有意義に楽しみました。

ビデオ鑑賞では3本の内、アメリカ人の食について、その基本となる食材がつけられていく過程にスポットを当て、警鐘を鳴らすドキュメンタリー「フードインク」に多くの人が見入っていました。また網走散策（こまば木の広場・流水硝子館・蒲鉾店）も大勢の方が、冬の厳しいオホーツク海の海岸景観を楽しんでいました。そして懇親会までのんびりとお風呂に入り、日頃の疲れを癒して頂きました。

懇親会では居城組合長の挨拶と乾杯を皮切りに、ビンゴゲームでは参加者が自ら読み上げる数字に一喜一憂し歓声とため息が入り乱れ会場は盛り上がりました。おい



東京農業大学よさこいソーラン同好会「農天掬」のエネルギーあふれるダンスを堪能しました。

しい料理を堪能しながら、宴会のメインであります「スコップ三味線・アップルシャベルズショー」では参加者もステージに上がり演奏する等、会場はさらに盛り上がり、また「東京農業大学よさこいソーラン同好会・農天掬」のエネルギーあふれるダンスにアンコールが鳴り止まず、笑顔・笑い声が飛び交いあつという間に2時間の懇親会は終了致しました。

大勢の方が二次会、三次会と尽きる事のない会話は夜が更けても弾み、日常の生活を離れ、ゆっくりとした時間を過ごし、思い出多き旅行となりました。「盛りだくさ



約60名が参加しました。

んの行事で面白かった」「観光付きの旅はよかった」「募集の段階で誰が呼ばれているのか知りたかった」など貴重な意見をたくさん頂きました。
今回ご参加頂きました皆さま、誠にありがとうございました。これからも皆様との絆や地域との絆を大切にしながら農協事業や共済事業と地域貢献活動の取り組みを通じて、豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくりに貢献して参ります。

清里特産品のタベ 清里産の 美味しさを 味わう

12月14日、商工会主催による『清里特産品のタベ』が開催され、清里焼酎の試飲会、麦香房のパン、澤田農場の熟成和牛の焼き肉と三種のおかずみそ、TOKO-TOKOの玉ねぎ肉まん・あんまん、長いも生産組合の長芋料理などの試食会が行われた。



試食会の長芋料理は、長いも生産組合の奥さんたちが作るアイデア料理5品目が用意されました。試食会が始まって5分も経たない間にあつという間に長芋料理がなくなってしまう、大人気でした。食べられなかった人はとても



長いも生産組合の奥さんたちが作ったアイデア料理



長芋のベーコン巻き



豚こまと長芋の丸め焼き



長芋のハムカツ



長芋と豆乳のレアチーズケーキ



長芋入りかりんとう

残念そうにしていました。長芋料理を食べた人からは「レアチーズケーキは長芋が入っているとは思えず信じられない味ですね」「長芋のベーコン巻きは長芋のシャキシャキ感がいいですね。歯ごたえが良くて香ばしいです」ととても好評でした。試食会の料理は全て

清里産であり、長芋料理の他に玉ねぎ肉まん・かぼちゃたくあん等の漬物・麦香房のパン・石釜焼きピザ・手打ちうどん・熟成和牛の焼肉・三種のおかずみそ・神の子池羊羹ロールなどたくさんの料理が用意されており、清里産の美味しさを味わった。



理事会の経過を お知らせ致します

第11回
10月29日

付議事項

次の事項について審議されました。
 議案第1号 特定組合員に対する供給限度額の変更
 議案第2号 理事に対する供給限度額の変更
 議案第3号 理事に対する貸付議案第4号 利用組合の貸付に係る理事の連帯債務の承認
 議案第5号 清泉産種子馬鈴薯幹旋に係る仮渡金実施要領の制定
 議案第6号 平成25年度固定資産取得に向けての仮発注
 議案第7号 組合員規程および福利厚生規程の一部改正

議案第8号 平成24年度9月期ディスクロージャー誌の設定
 議案第9号 下期対策

報告事項

次の事項が報告されました。
 ① 特定組合員の9月末実績
 ② 組合員の年内資金計画の結果
 ③ でん粉工場操業の中間報告
 ④ 麦作センター操業の実績報告
 ⑤ JA北海道大会への参加
 開催日時 平成24年11月21日
 開催場所 札幌コンベンションセンター
 ⑥ 経営定期点検（10月期）の実施結果

第12回
11月23日

付議事項

次の事項について審議されました。
 議案第1号 平成24年産玉葱・長芋の融資単価の設定
 議案第2号 農業者戸別所得補償制度に係る仮渡金実施要領の一部改正

報告事項

次の事項が報告されました。
 ① 平成23年産共計澱粉本精算
 ② 平成24年産でん粉の概算払い
 ③ でん粉工場操業の実績報告
 ④ 内部監査実施結果

第13回
12月13日

付議事項

次の事項について審議されました。
 議案第1号 平成24年度期中値引き（奨励）の実施
 議案第2号 平成24年産でん粉加工料の決定
 議案第3号 平成24肥「農家経営支援対策」
 議案第4号 特定組合員に対する農業者戸別所得補償制度仮渡金実施要領に基づく仮渡金の融通
 議案第5号 理事に対する農業者戸別所得補償制度仮渡金実施要領に基づく仮渡金の融通
 議案第6号 理事に対する貸付
 議案第7号 平成25年度営農計画樹立に係る作物別単価の設定
 議案第8号 役員報酬審議会委員の委嘱者
 議案第9号 平成24年度給与改定
 議案第10号 従業員に対する12月期賞与の支給

協議事項

次の事項が協議されました。
 1 平成25年度事業運営方針（案）

報告事項

次の事項が報告されました。

① オホーツクJA役員研修会の開催
 開催日時 平成25年1月23日～24日
 開催場所 ホテル網走湖荘
 ② 組合員に対する清里焼酎の配布

謹んでお悔やみ
申し上げます

成戸 ウタさん（84歳）
 清里町上斜里 成戸巧さんの祖母
 平成24年12月12日逝去



（6集団大塚清さんの長男）
 大塚 翔太さん
 西川妃保美さん（斜里町）

組合員状況

（平成25年1月1日現在）

■組合員数		（前回報告より）	
正組合員（個人）	227名	（2名減）	
〃（法人）	10法人	（変動なし）	
准組合員（個人）	1,317名	（11名増）	
〃（法人）	0法人	（変動なし）	
〃（団体）	25団体	（3団体減）	
		（合計）	1,579

えっ!?! これじゃがいも?
巨大なじゃがいもが出現!!



こがね丸



重さなんと **1kg** もあります。

今年は残暑で、肥大が進んだことが理由なのか原因は特定できませんが、このような大芋が収穫されました。

年末・年始の業務日程について

月 日	部 門 事 務 所 機 械 セ ン タ ー で ん 粉 工 場	金 融 課	給 油 所 (本・支所)
12/28 (金)	営業 (午後から大掃除)	営 業	営 業
12/29 (土)	休 み	休 み	営 業
12月30日(日)は全部門休業			
12/31 (月)	休 み	休 み	営業 (8:30 ~ 12:00) (札弦は 9:00 ~ 12:00)
1月1日(火) ~ 3日(木)までは全部門休業			
1/4 (金)	休 み	営 業	営業 (10:00 ~ 15:00)
1/5 (土)	休 み	休 み	営業 (10:00 ~ 15:00)
1月6日(日)は全部門休業			
1月7日(月)は全部門営業			

★エコーブきよさと店は年内無休、また、初売りは1月4日(金)となっておりますので、ご利用宜しくお願い致します。



新年明けまして
おめでとうございます

平成25年 元旦

J A 清里町 役職員一同

冷え性の対処法

佐久総合病院名誉院長 ● 松島松翠

冬になると、「手足が冷えて、なかなか寝付けない」「体が冷えて腰や肩が痛む」など、「冷え」に悩む女性が少なくありません。「冷え性」は、なんらかの病気が原因で冷えがある場合と、特に病気はないが、冷えがある場合の二つがあります。特に病気もなくて冷えが起こる原因には、食生活の乱れで、体の中で作られる熱の量が少ないことや、動脈硬化や貧血などがあって、作られた熱を体の隅々まで運ぶことができないことがあります。その他、自律神経の乱れで、冷えが起こる場合もあります。

冷え性を改善するには、生活習慣を見直すことが大事です。

体を温める熱のものになるのは食物です。特に冷え性の人は、朝食を必ず取るようにしましょう。朝は体温や代謝がまだ低い状態なので、それらを高めて、体を目覚めさせるためには、朝食がぜひ必要です。

また運動で筋肉を増やします。筋肉は、一日の活動で体が生み出す熱の約6割を作り出しています。



運動不足であまり筋肉を動かさないでいると、筋肉が低下し、冷えの原因になります。1日30分、早足のウォーキングなどが適当です。服装も大事で、薄着や露出はできるだけ避け、全身の熱を逃さないようにし、手袋やマフラーなどで局所の保温をします。腹巻きやカイロを活用するのも効果的です。入浴は体を温めますが、あまり熱い湯でなく、38度くらいのぬるめの湯で、15分程度ゆっくり入っていると体が温まります。足が冷えてしまったときは、寝る前の足湯もよいでしょう。

大好きな花のおかげで賞をもらえたことに喜び

第51回 J A 北海道女性大会・北海道家の光大会で最優秀賞を受賞

11月9日、第51回 J A 北海道女性大会・北海道家の光大会が行われ、家の光記事活用体験発表で第1 宮農集団 中平三枝子さんが最優秀賞を受賞しました。

「最優秀賞に選ばれて、とても驚きました。花が好きで仲間と始めたドライフラワー『花いちもんめ』は、家の光に記事を載せたことがきっかけで、その記事を見た他の地区の奥さんの目にとまり、各地区での講習会の依頼がくるようになりました。こんなに広まるなんて驚きでしたね。『花いちもんめ』が20年を迎えてからは、他の地区での講習会は行わず、町内でのイベントや直売店のお客さんを相手に販売をしています。これからも自分たちのペースでゆっくりとできたらいなと思っています。今回の受賞を周りからお祝いをしてもらいました。花が好きで自分史を書いたのですが、花のおかげで最優秀賞をもらえたことが嬉しいです。家族の支えがあったからこそ続けられたので感謝しています。」と三枝子さんは喜び

を語ってくれました。

三枝子さんは、今年の2月に全国家の光大会北海道代表として発表することになっています。

次のページに体験発表の文章を載せてあります。



最優秀賞を受賞した第1 宮農集団 中平三枝子さん

『花が好き、人が好き』

私が住んでいる清里町は、日本百名山にも選ばれた斜里岳の裾野に広がる人口4500人の畑作中心の、小さな町です。20歳の時、同じ町内の農家の人に嫁ぎました。子供の頃から花が好きだった私は、庭の隅にオンコの木が2、3本あるだけの家の回りに、がっかりした記憶があります。

子供は男の子二人授かり、体調を崩していた義父も、6年後に亡くなりました。34歳の時、義母と入れ替わり、女性部に入りました。若妻会（フレミズ）に入会し、冬期学習会で人形の作り方を教えていただいたのが、自分なりに上手に出来たと思い、沢山作って飾っていると、郵便局のギャラリーで展示会をしませんかと勧められ、人形に野山で取った草花のドライフラワーを飾った所、人形よりもドライフラワーの方が評判が良く、近所の人に教えてと言われたのがキッカで、独学で試行錯誤しながら、仕事の合間に物置の片隅で作品を作りました。

平成4年、40歳の時、子供に手がつかなくなかったので、花好きな仲間6人でドライフラワー作りをし、「花いちもんめ」と名付け、会を作りました。思ったよりドライフラワーが沢山綺麗に出来たと、喜んでいたら「こんなに沢山どうするの」と仲間と言われ、遊び始めたのに、と思いつつも、農協、役場などに行くのが大の苦手な私も、役場の産業課に電話し、清里産業祭で売る事にしました。価格も100円〜200円と安かった事もあり、アツと言う間に完売しました。お客さんに、ドライフラワーってこんなに綺麗なのと言われたり、町の特産物としてとりあげていただいたりと、本

当に順風満帆な出だしでした。

私も、仲間も、花作りの名人になった気分です。本格的に始める事にしました。やるからには遊び心ではなく、こだわりを持ち、誰にも負けない綺麗なドライフラワー作りをしようと思っていました。一年目は、本当にうまくいって

思っていたグループも、代表の私がしっかりしていなかったためでしょう、色々と考えの違いが出た様になり、グループがバラバラになりかけた時、私がもうやめたいと泣き言を言っていると、何事にも無関心な夫が「自分が好きで始めた事なんですよ、1人になってもいいんじゃないの」と言われました。仲間も「儲からなくても、楽しくやる」と言ってくれる人もおり、平成6年、メンバーも4人になり、普及所のアドバイスもあり、規約も作り、仲間であつてもライブル感覚で、この花は売れる・売れないは自分で判断し栽培する花をきめる事にしました。良く出来た所は、教え合い、楽しく、笑いのある「花いちもんめ」になりました。

そんな私たちを女性部担当の方が、家の光に記事を投稿していただいたのを、別海町の酪農家のお嫁さんの目に止まり、私の所へ訪ねて来てくれたのが、□□ミで広がり、お客さんが沢山来てくれる様になりました。

JA女性部、婦人会学校の授業の講師、本州からも注文が来るようになり、売り上げが上がっていく一方で、在庫不足でお客さんに迷惑をかけるようになり、家族にも家の中に材料を持ち込むので苦情が出るようになり、どうしようかと話し合っていると、仲間のご主人が「半額補助で元氣事業と言つのがあるよ」と、教

えてくれました。

今は女性起業家と言われ、女性が何をすることも窓口が広くなりましたが、14、15年前は、女性だけ4人のグループ、まして花を干すだけでは、農協・役場・普及所の良い返事はもらえず、門前払い的な所、何度も話を聞いていただき、納得してもらい、平成10年度北海道農業けんき事業の補助を受ける事になりました。

1050万円をかけ、各自ビニールハウス、花を保管するためのJRコンテナ作業場としてスーパーハウス。直売所は私の家の漬物部屋と物置をリフォームし、16畳の講演会も出来る、ドライフラワー専門の直売店を作りました。

9月から翌年の3月まで営業する事にし、販売は電話の完全予約制にし、人件費をかけない様にしました。年間の売り上げを、4人で200万を見込んで、農協から4年の返済ローンを組みました。でも、525万円は、自分達で返済しなければと思うと、寝られない夜もありました。

世間の噂に、今に経営がドライになるとか、「花いちもんめ」ではなく、「無いちもんめ」になると言われ、畑仕事は何をおいても優先し、雨降りには花と、頑張ったかいがあり、予定通り返済できました。夫達もいつの頃からか手伝ってくれる様になり、でも「手は出しても口はださないで」と言っているの、絶対口は出しません。その代わり、年に数回感謝をこめて飲み会を開きます。

平成15年、家の光の9月号に、私達花いちもんめの事をハウス活用法として、大きく掲載していただき、こんなに立派な記事になるんだね、と大喜びしました。

この頃からドライフラワーの人氣も、陰りが出、売り上げは下がる一方で、□□も終わつたし、私達もすこし遊ぼう、楽をしようと言っていたら、平成19年56歳の時、JA女性部の部長をお願いされ、両親も見送り、息子夫婦もあり、夫も私も健康で断る理由もなく、出来ないながらも引き受けました。

部長になって困ったのが挨拶でした。家の光は嫁いでからずっと読んでいましたが、読まなかったページも全ページ目を通し、農業情勢の知識を取り入れ、言葉を参考にさせていただきました。

毎年12月に行う研修会に、家の光の記事「親と子の童話の読み聞かせ」を、初めてしました。部員の中には、プロ顔負けの語り上手な人が沢山いて、会場も大いに盛り上がり、大成功に終わらせる事が出来ました。

部長2年目には、地区役員もさせていただき、まわりの協力を得ながら任期を終える事が出来ました。平成21年、夫が62歳、私が58歳で息子夫婦に経営をバトンタッチし、清里女性部は三部制なので、アカシヤ部に入りました。先輩方の気持ちの苦さと、華やかに刺激を受けながら、楽しい女性部生活を送っています。

「花いちもんめ」は、20年で区切りをつけ、町のイベントと直売店に来るお客さんを相手に、あと何年できるかわかりませんが、仲間4人で無理はしないで楽しくドライフラワー作りをしたいと思っています。

家の光は、人生相談あり、作りやすい料理のレシピあり、色々な情報が分かりやすく書かれているので、これからも読み続けて行きたいと思っています。

花の売り上げは落ちても、食べることにおしゃべりは、ますますうなぎ登りの仲間と、8月号のトマト丸ごとシロップ蒸しを作って、花の集まりで食べようとっています。花が好き、人が好きです。

J/A清里町女性部



発行／清里町農業協同組合
北海道釧路郡清里町羽衣町2番地
TEL 0157-25-2211 FAX 0157-25-2200



7 集団支部



1 集団支部



8 集団支部



2 集団支部



9 集団支部



4 集団支部



10 集団支部



5 集団支部



アカシヤ部会



26
6 集団支部

編集／組合だより編集委員会
印刷／星印刷工業株式会社